

# スタートアップ・エコシステム形成支援 採択プラットフォーム紹介



プラットフォーム名: (2021年10月時点)

## Tongali プラットフォーム

2021年度開始～2025年度終了予定

### 参画機関

主幹機関:名古屋大学、共同機関:豊橋技術科学大学、名古屋工業大学、岐阜大学、三重大学、名城大学、中京大学、藤田医科大学、名古屋市立大学、岐阜薬科大学、愛知県立芸術大学、椋山女学園大学、光産業創成大学院大学、愛知県立大学、静岡大学、浜松医科大学、南山大学

幹事自治体:愛知県、岐阜県、名古屋市、浜松市 協力機関:日本ベンチャーキャピタル(株)、Beyond Next Ventures(株)、ラーニング・アントレプレナーズ・ラボ(株)、(株)MTG Ventures、Technology Partnership of Nagoya University、シンガポール国立大学、ノースカロライナ州立大学、(株)アカデミック・キャングスター、中部経済連合会、(公財)浜松地域イノベーション推進機構、(株)名古屋銀行

### 目指すスタートアップ・エコシステム

ビジョン「ものづくり産業集積地としての基盤を活かした“ディープテックイノベーション”のグローバル拠点形成」を掲げ、未来に繋がる価値を創り、届けることができるトンガった技術を発掘・人材を育成し、技術・イノベーションの観点から描くスマート社会「Tech Innovation Smart Society」を具現化するスタートアップ・エコシステムを実現する。

### (1) 起業活動支援プログラムの運営

研究開発課題は10件(R4・5年度)、15件(R6年度)、20件(R7年度)を予定している。

- ・シーズライブラリを活用した技術の発掘を行う。
- ・選考前の仮説検証プログラム実施により高位平準化を図る。
- ・選考後はメンターによるハンズオン支援・起業教育プログラムを実施する。
- ・拠点都市と連携したDemoDayでの発表機会を提供、継続支援を行う。

### (2) アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営等

希望するすべての学生等がアントレ教育を受講できる教育体制を構築し、起業支援までの深度を高めた教育・育成を行う。

- ・アントレ教育の裾野を拡大し、PF全体で10,000人/年が受講できる体制を構築する。
- ・マインドセット、スキルセット、実践フェーズのプログラムを開講する。
- ・5年後、全機関の全学教育等でマインドセットステージの教育を行う。

### (3) 起業環境の整備

起業を志す研究者・学生が、自らの起業フェーズを明確に理解し、次のステップへの必要な支援を受けられる環境整備を行う。

- ・活動拠点、試作機器を提供する。
- ・起業相談窓口の機能拡充やPF内起業ルールの高度化を図る。
- ・実証試験やコミュニティ形成のための支援プログラムを提供し、学生・教員・支援者・企業等を繋げる広くて濃いネットワークを構築する。

### (4) 拠点都市のエコシステムの形成・発展

本地区のスタートアップ・エコシステム拠点都市の運営機関の1つとして、ビジョン・KPI達成に向け取り組む。

- ・拠点都市コンソーシアム運営委員会と接続し、相互交流の下、ビジョン達成に取り組む。
- ・海外ベンチャー先進地域や他の国内グローバル拠点都市との連携を活発化させエコシステムの発展を図る。

### 活動成果

2021年11月より活動開始のため、今後記載予定

<b>プラットフォーム名</b> Tokai Network for Global Leading Innovation (Tongali)	
<b>参画している拠点都市のコンソーシアムなどの名称</b> Central Japan Startup Ecosystem Consortium	
<b>主幹機関 名古屋大学</b> 【総括責任者】 総長 松尾 清一 【プログラム代表者】 副総長／学術研究・産学官連携推進本部長 佐宗 章弘 【プログラム共同代表者】 学術研究・産学官連携推進本部長補佐 加藤 滋	
<b>共同機関 豊橋技術科学大学</b> 【共同機関責任者】 学長 寺嶋 一彦 【プログラム共同代表者】 副学長／研究推進アドミニストレーションセンター長／教授 田中 三郎	<b>共同機関 名古屋工業大学</b> 【共同機関責任者】 理事／副学長 江龍 修 【プログラム共同代表者】 産学官金連携機構 准教授 矢野 卓真
<b>共同機関 岐阜大学</b> 【共同機関責任者】 学長 森脇 久隆 【プログラム共同代表者】 副学長／学術研究・産学官連携推進本部長 王 志剛	<b>共同機関 三重大学</b> 【共同機関責任者】 学長 伊藤 正明 【プログラム共同代表者】 副学長／地域イノベーション推進機構副機構長 稲葉 忠司
<b>共同機関 名城大学</b> 【共同機関責任者】 学長 小原 章裕 【プログラム共同代表者】 副学長 平松 正行	<b>共同機関 中京大学</b> 【共同機関責任者】 副学長 橋本 学 【プログラム共同代表者】 総合政策学部 教授 坂田 隆文
<b>共同機関 藤田医科大学</b> 【共同機関責任者】 理事／副学長／研究支援推進本部長 岩田 仲生 【プログラム共同代表者】 理事／産学連携推進センター長 齋藤 邦明	<b>共同機関 名古屋市立大学</b> 【共同機関責任者】 理事長／学長 郡 健二郎 【プログラム共同代表者】 理事／副学長 今泉 祐治
<b>共同機関 岐阜薬科大学</b> 【共同機関責任者】 学長 原 英彰 【プログラム共同代表者】 薬学部 教授 北市 清幸	<b>共同機関 愛知県立芸術大学</b> 【共同機関責任者】 学長 戸山 俊樹 【プログラム共同代表者】 美術学部 准教授 春田 登紀雄
<b>共同機関 相山女学園大学</b> 【共同機関責任者】 現代マネジメント学部 学部長 黒田 達朗	<b>共同機関 光産業創成大学院大学</b> 【共同機関責任者】 学長 瀧口 義浩

<p>【プログラム共同代表者】 現代マネジメント学部 教授 梶山 泰生</p>	<p>【プログラム共同代表者】 リエゾンセンター長／光産業創成研究科 教授 江田 英雄</p>
<p>共同機関 愛知県立大学 【共同機関責任者】 学長 久富木原 玲 【プログラム共同代表者】 情報科学部 准教授 神谷 幸宏</p>	<p>共同機関 静岡大学 【共同機関責任者】 学長 日詰 一幸 【プログラム共同代表者】 理事／副学長 川田 善正</p>
<p>共同機関 浜松医科大学 【共同機関責任者】 学長 今野 弘之 【プログラム共同代表者】 理事／副学長 山本 清二</p>	<p>共同機関 南山大学 【共同機関責任者】 副学長 星野 昌裕 【プログラム共同代表者】 国際センター長 山岸 敬和</p>
<p>幹事自治体 愛知県／岐阜県／名古屋市／浜松市</p>	
<p>協力機関 日本ベンチャーキャピタル株式会社／Beyond Next Ventures株式会社／ラーニング・アントレプレナーズ・ラボ株式会社／株式会社MTG Ventures／Technology Partnership of Nagoya University／シンガポール国立大学／ノースカロライナ州立大学／株式会社アカデミック・ギャングスター／中部経済連合会／浜松地域イノベーション推進機構／株式会社名古屋銀行</p>	
<p>活動概要</p> <p>① 全体概要</p> <p>東海地域の17大学が一体となり、Tech Innovation Smart Societyを実現していくために、グローバル展開を志向するシーズアウト型の起業支援、アントレプレナーシップ教育、環境整備を融合していくことで、面でのスタートアップ創出の環境整備を行う。</p> <p>具体的には、①大学に埋もれた起業可能性の高いシーズ発掘・磨きのためのGAPファンドとインキュベーションプログラム、②アントレプレナーシップ教育の裾野拡大と深化、③プロトタイプ製作と熱い刺激（ステージが異なるコミュニティ・ネットワーキング）に触れることができる場を創る。スタートアップ・エコシステム・グローバル拠点都市「Central Japan Startup Ecosystem Consortium」と連結し本地域のエコシステム形成に取り組む。</p> <p>② 実施項目ごとの概要</p> <p>（1）起業活動支援プログラムの運営</p> <p>参加大学の技術シーズから起業することを目指して、①起業の可能性の高いシーズ情報を共有するために構築しているシーズライブラリを活用した、埋もれた技術シーズの探索、②支援人材である産学連携担当者、事業化プロデューサー候補、メンターなどの協力者が一堂に会したスタートアップを目指す起業チームづくり、③モノづくり・医療などの分野別のGAPファンドからの資金提供および起業研修プログラムの実施、④磨き上げたビジネスモデル・プロダクトをプレゼンし、VCなどからの資金を呼び込むための拠点都市と連携したDemo Dayの開催を行う。最終年には、50社／年のスタートアップを創出するプログラムに成長することを目指していく。</p>	

## **(2)アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営**

現在実施しているアントレプレナーシップ人材育成“Tongaliプロジェクト”を基盤に、地域で希望する学生などが受講できる教育体制の構築と、起業教育まで深度を高めた教育・育成を行っていく。具体的には、①インセプションから始まるマインドセットプログラム（意識醸成～アイデア創出のトレーニング）、②コンピテンシー・スキルセットと実践教育、③自らのアイデアや技術を用いて起業化を進めるプログラムを実施する。5年後には、拠点都市の全大学84大学のうち30大学が参加し、プラットフォームの全機関の全学教育などでマインドセットステージの教育を行い、プラットフォーム全体で、10,000人／年が受講できる体制を構築する。

## **(3) 起業環境の整備**

地域内の3大学に整備したTongali Tech Base (TTB) 中心に、試作機能のほか、メンターやスタートアップの先輩格とのコミュニケーションを通じて、熱い刺激に触れることができる“集う機能”を整える。①効率的な試作品製作・仮説検証環境（ファブラボTTB）の維持・運用、②コミュニティ形成・関係機関とのハブ機能の構築の維持・運用、③共同機関・TTB間の遠隔通信システムの維持・運用といった環境を整備するとともに、大学における起業相談窓口の拡充・起業関係諸ルールのプラットフォーム内設置などを行う。また、大学間および拠点都市内のインキュベーション拠点などとの連携体制を整え、拠点内の交流の機会を創出し、拠点間の連携促進・参画者の裾野の拡大を行う。

## **(4) 拠点都市のエコシステムの形成・発展**

Tongali-PFに「プラットフォーム推進委員会」を設置し、計画・ビジョンの策定やコミュニティ（拠点）の要望に沿ったイベントなどを企画・実施するとともに、拠点都市に設置するコンソーシアム運営委員会に接続し、相互交流の下で拠点都市のビジョン達成に取り組む。また、アドバイザー委員会を設置し、拠点共同運営機関の有識者を招き、活動の実質化のための助言を受ける。海外のベンチャー先進地域との交流によるノウハウ会得や他の国内グローバル拠点都市との連携にも努める。スタートアップによって還流される人材・資金・ノウハウを、大学の基礎研究・応用研究に再投資することで、新たな起業につながる研究成果を創出するエコシステムを構築する。